

## ご 挨拶

京都府高体連柔道専門部

部長 佐々井 宏平

ご挨拶の冒頭にあたり、平成28年度の京都府高体連柔道専門部のすべての事業を無事に終了することができましたことを皆様にご報告申し上げます。これもひとえに専門委員の先生方をはじめ、京都府柔道連盟、柔道関係諸団体の皆様方のご指導とご協力、そして加盟各校のすべての先生方のご尽力とご支援の賜物と、ここに改めて御礼を申し上げます。今日まで皆様方の絶大なるお力添えを賜り、微力ではございますが務めさせていただくことができました。心より感謝いたします。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

「我慢、集中、執念、この言葉を心に刻み挑み続けてきました」。昨年、リオデジャネイロオリンピック大会の柔道競技73kg級で優勝された大野将平さんが、試合終了後のインタビューで開口一番に語られた三つの言葉を私は鮮明に覚えています。ご縁があって、昨年の11月に大野さんは本校にご来校下さり、柔道を通じて学んだことと、これからの目標についてご講演を頂くことになりました。

講演の中で、三つの言葉についてお話しされました。中学生の時代に我慢を覚え、高校時代に集中することの大切さを学び、そして大学時代に執念を身につけたことを明かされました。中学時代に故郷の山口県から上京し、講道学舎に入門。毎朝、5時半に起床しトレーニングが始まり、授業が終了すると学舎で稽古が始まる。洗濯を終えるとすでに日付が変わる日々。如何なる環境の中でも自分をコントロール出来る我慢を覚えられました。高校に進学する際に、館長先生から成績は1番を取り続けることを命ぜられ、授業を通じて集中することの大切さを学び、3年間学業成績はトップ。そして、大学に入学後、恩師から「君はこの稽古では世界で勝てない」と言われ自分で独自のトレーニング法を探究し、誰にも負けないという執念を身につけられたのです。講演の中で人生の分岐点でご指導くださった皆様への感謝の意も述べられました。今後の目標はオリンピック3連覇を達成された野村忠宏先輩を超え4連覇を果たすことと明言されました。

中高時代に高みの目標に向かって本気で取り組み、自己を確立することが如何に大切であるか、についてご教示を下さいました。

各校は新入生をお迎えになり、来る大会に向け稽古に励まれていることと思います。高校生として自己を律し、周囲の方々への感謝をもって、各種大会でご活躍されますことを祈念致します。ご指導いただきます顧問の先生方をはじめ役員の先生方のご教示を頂きますことを心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、この度「部報」平成29年度第40号が、関係者の皆様のご尽力により刊行されました。お世話いただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、京都府柔道界の更なる発展のため今後ともご指導とご支援の程よろしくお願い申し上げご挨拶といたします。